

15 地域医療支援病院紹介率・逆紹介率

指標の解説

- 当該紹介率及び逆紹介率は、地域医療支援病院としての開業医支援及び救急医療の確保という要素を踏まえた指標であり、急性期医療機関はより高い数値を目指すことが求められる。
- 当該紹介率が高い場合は、「かかりつけ医」等から高度な医療が必要と判断された患者及び救急要請があった重症患者に対して、積極的な医療を行っているとは評価できる。
- 当該逆紹介率が高い場合には、地域の医療機関との連携・機能分化について、積極的に対応していると評価できる。

分子：【紹介率】初診紹介患者数－初診かつ救急搬送された紹介患者
 【逆紹介率】診療情報提供料算定件数

分母：【共通】初診患者数－初診救急搬送患者数－休日夜間初診患者数

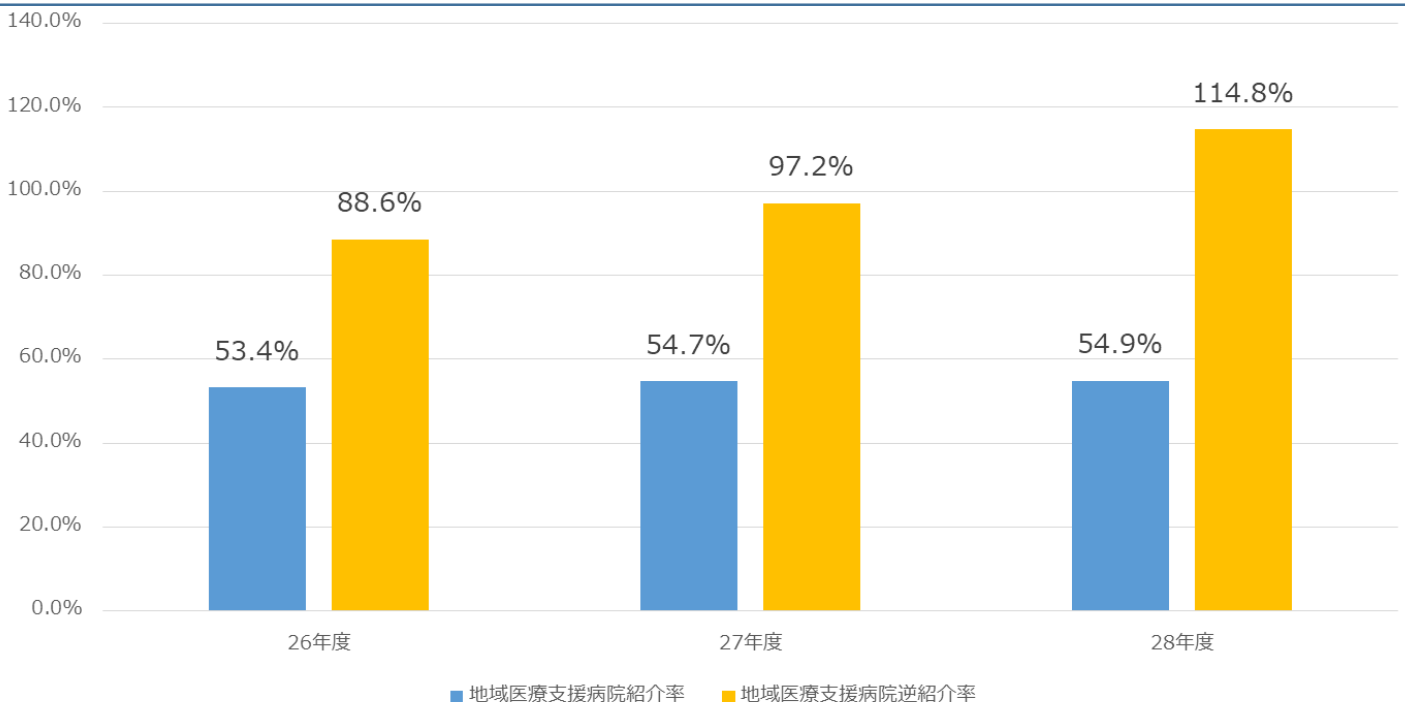
参考値：紹介率53.9%

逆紹介率63.2%

分子：【紹介率】紹介初診患者数 【逆紹介率】逆紹介患者数

分母：初診患者数－（休日・夜間の初診救急患者数－休日・夜間の初診救急入院患者数）

（引用元：一般社団法人日本病院会作成「2015年度QIプロジェクト結果報告」参加病院の平均値）



逆紹介率については上昇を続けているが、紹介率は横ばいの状態が続いている。28年度より地域医療連携検査予約システム（C@RNA Connect）の導入を行い、地域医療連携の面からの利便性向上に努めているところである。